

2025年3月期 決算説明会

2025年4月28日
株式会社オリエンタルランド

I. 決算概要

II. 2024中期経営計画の振り返り

I. 決算概要

I. 決算概要

1. 当期実績(前期比較)

(億円)

連結損益計算書

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	6,184	6,793	608	9.8%
テーマパーク事業	5,137	5,521	383	7.5%
ホテル事業	883	1,104	220	25.0%
その他の事業	163	167	4	2.6%
営業利益	1,654	1,721	66	4.0%
テーマパーク事業	1,395	1,404	9	0.7%
ホテル事業	247	304	56	22.9%
その他の事業	7	6	△ 1	△ 16.2%
経常利益	1,660	1,733	73	4.4%
特別利益	-	2	2	-
税金等調整前当期純利益	1,660	1,735	75	4.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,202	1,241	39	3.3%

ゲスト1人当たり売上高の増やホテル事業の増などにより増収増益し、
過去最高の売上高及び各利益となった

4

1. 当期実績 (前期比較)

当期実績は、ご覧の通りです。
前期と比較して、ゲスト1人当たり売上高の増や、
ホテル事業の増などにより増収増益し、
過去最高の売上高及び各利益となりました。

1. 当期実績(前期比較)－主な増減要因

テーマパーク事業① 	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高（億円）	5,137	5,521	383	7.5%
入園者数（万人）	2,751	2,756	5	0.2%
ゲスト1人当たり売上高（円）	16,644	17,833	1,189	7.1%
アトラクション・ショー収入	8,229	9,386	1,157	14.1%
商品販売収入	5,157	5,084	△ 73	△ 1.4%
飲食販売収入	3,258	3,362	104	3.2%

入園者数はほぼ同様

- ・ファンタジースプリングス開業による増
- ・海外ゲスト数の増
- ・長期保有株主用パスポートによる増
- ・リベンジ消費の落ち着きなどによる旅行需要の減
- ・東京ディズニーリゾート®40周年イベント終了による減
- ・猛暑による減

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・アトラクション・ショー収入の増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
 - － 東京ディズニーリゾート・パッケージングの増
 - － 変動価格制の高価格帯チケット構成比の増
- ・商品販売収入の減
 - － 東京ディズニーリゾート40周年関連商品の販売終了による減
 - － ファンタジースプリングス関連商品の販売による増
- ・飲食販売収入の増
 - － ファンタジースプリングス新規店舗オープンによる増

入園者数はほぼ同様

アトラクション・ショー収入の増などにより、ゲスト1人当たり売上高は過去最高

5

1. 当期実績(前期比較)－主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、383億円増の5,521億円となりました。

入園者数は、ほぼ同様となりました。

ゲスト1人当たり売上高は、アトラクション・ショー収入の増などにより、過去最高となる17,833円となりました。

アトラクション・ショー収入は、ディズニー・プレミアアクセスの増や、東京ディズニーリゾート・パッケージングの増などにより、増加しました。

商品販売収入は、ファンタジースプリングス関連商品が増したものの、東京ディズニーリゾート40周年イベント関連商品の販売終了により、減少しました。

飲食販売収入は、ファンタジースプリングス開業に伴う新規店舗オープンなどにより、増加しました。

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	5,137	5,521	383	7.5%
営業利益	1,395	1,404	9	0.7%

営業利益はほぼ同様

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 104
商品・飲食原価率の増	△ 30	メンテナンス費の増	△ 21
人件費の増	△ 52	販売促進費の増	△ 14
前期一時金支給と 当期業績賞与の計上差額による減	57	エネルギー費の増	△ 10
準社員人件費の増	△ 43	エンターテインメント関連費用の増	△ 10
正社員人件費の増	△ 42	システム関連費用の増	△ 9
その他	△ 25	その他	△ 37
		減価償却費の増	△ 166
		新規資産の取得による増など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

ファンタジースプリングス開業などに伴い各コストが増加したものの、
売上高の増によりほぼ同様となる

6

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
減価償却費や諸経費が増したものの、売上高の増により、
9億円増の1,404億円となりました。

商品・飲食原価率は、
飲食原価率は、原材料の高騰や一部食材の外部発注などにより、増加しました。
商品原価率は、在庫状況を鑑みた販売価格の調整による使用原価の増により
増加しました。

人件費は、賃金改定や、
ファンタジースプリングス開業などに伴う労働時間の増による
準社員人件費の増などにより増加しました。

諸経費は、
老朽化対策などに伴うメンテナンス費の増や
集客活動の強化による販売促進費の増などにより
増加しました。

減価償却費は、
ファンタジースプリングス開業による新規資産の取得などにより
増加しました。

1. 当期実績(前期比較)－主な増減要因

(億円)

HOTEL ホテル事業	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	883	1,104	220	25.0%
ディズニーホテル	797	1,014	217	27.2%
客室稼働率（%、pt）	98.4	95.7	△ 2.7	
平均客室単価（円）	54,430	64,886	10,456	19.2%
その他ホテル	85	89	3	4.7%
営業利益	247	304	56	22.9%

売上高の増

- ・ 東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテル開業による増
- ・ 客室単価の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増（△ 40億円）
 - － 在籍者数の増、賃金改定による増など
- ・ 諸経費の増
- ・ 減価償却費の増（△ 26億円）

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの開業や客室単価の増により、
宿泊収入が増加し、増収増益

7

1. 当期実績（前期比較）－ 主な増減要因

ホテル事業は、
東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの開業や
客室単価の増などによる宿泊収入の増により、
売上高は220億円増の1,104億円となりました。

当期のディズニーホテルにおける客室稼働率は
東京ディズニーセレブレーションホテルの修繕の実施により
2.7ポイント減の95.7%となりました。
平均客室単価は10,456円増の64,886円となりました。

営業利益は、売上高の増などにより、56億円増の304億円となりました。

1. 当期実績(前期比較)－主な増減要因

(億円)

その他の事業 	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	163	167	4	2.6%
営業利益	7	6	△ 1	△ 16.2%

売上高の増

- ・乗降客数の増によるモノレール事業の増

営業利益の減

- ・人件費の増
- ・諸経費の増

モノレール事業などが増収したものの、人件費や諸経費の増により減益

8

1. 当期実績(前期比較)－主な増減要因

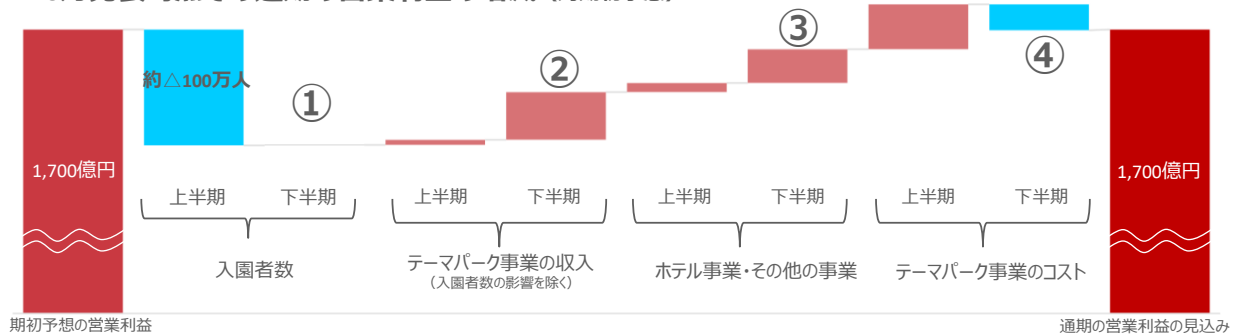
その他の事業は、
乗降客数の増加に伴うモノレール事業などの増加により、
売上高は4億円増の167億円、
営業利益は、
人件費や諸経費の増などにより
1億円減の6億円となりました。

2. 当期実績(10月時点の想定との比較)

10月発表時点の下半期想定との比較 営業利益は、10月時点の想定を上回り、1,721億円となった

	営業利益への影響	主な増減要因
①	下回った	・リベンジ消費の落ち着きなどによる旅行需要の減が想定以上だったことによる減 ・東京ディズニーリゾート40周年イベント終了による減が想定以上だったことによる減 ・雨天による減
②	上回った	・ディズニー・プレミアアクセスの増 ・商品販売収入の増 ・東京ディズニーリゾート・パッケージパッケージの増
③	上回った	・客室単価の増による宿泊収入の増
④	上回った	・諸経費の減

10月発表時点での通期の営業利益の増減(対期初予想)



ゲスト1人当たり売上高やホテル事業の増などにより、10月発表時点での想定を上回った

2. 当期実績(10月時点の想定との比較)

10月時点の想定と比較した増減要因をご説明します。

入園者数は、
リベンジ消費の落ち着きなどによる旅行需要の減や、
東京ディズニーリゾート40周年イベント終了による減が想定以上だったことによる減や
雨天による減などにより、下回りました。

ゲスト1人当たり売上高は、
ディズニー・プレミアアクセスの増や、商品販売収入の増などにより、上回りました。

ホテル事業・その他の事業の売上高は、
客室単価の増による宿泊収入の増などにより、上回りました。

テーマパーク事業のコストは、
諸経費の減などにより下回り、営業利益への影響額は想定を上回りました。

II. 2024中期経営計画の振り返り

II. 2024中期経営計画の振り返り

2024中期経営計画 目標

<方針> 新型コロナウイルス感染症の流行による影響からの回復と将来に向けたチャレンジ

目標

ゲストの体験価値向上

財務数値の回復

- ・ ゲストの来園回帰を確実に図りながら段階的な回復を目指す

<2023年10月発表 2024年度財務目標>

- ・ 連結営業キャッシュ・フロー* **1,800億円レベル**
- ・ 連結営業利益 **1,600億円レベル**
- ・ ROE **11%レベル**

*営業キャッシュ・フロー＝親会社株主に帰属する当期純利益＋減価償却費

目標に向けた取り組みを着実に進捗させ、感染症流行から力強く回復

11

2024中期経営計画の振り返り

2022年4月に掲げた2024中期経営計画の目標は
ご覧のとおりです。

本方針のもと、
ゲストの体験価値向上と財務数値の回復に向けて着実に進捗させてきた結果、
感染症流行から力強く回復できたと捉えております。

目標① ゲストの体験価値向上：達成

1日当たりの入園者数上限を下げ、平準化の推進	1日当たりの入園者数上限を感染症流行前よりも引き下げ、快適なパーク環境を実現 - 平日と休日の入園者数の差は、感染症流行前より縮小
選択肢の提供	- ディズニー・プレミアアクセスの導入、対象コンテンツの拡充 - 東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージのプランの拡充と販売枠数拡大 - ファンタジースプリングスの高い初期需要に応える「1デーパスポート：ファンタジースプリングス・マジック」を販売
パークの魅力向上	2024年6月にファンタジースプリングスが開業し、体験価値が向上 - ファンタジースプリングスの投資額は3,200億円を想定していたものの、約3,010億円となる見込み - 感染症流行により一度縮小していたスペシャルイベントやエンターテインメントの規模を回復 5年ぶりにキャッスルプロジェクションを新規導入し、マーベルなど、新規の知的財産の育成も実施

【参考】



対象数	ゲストからの評価やニーズを踏まえ、18コンテンツに導入（2025年4月末時点）	販売枠数	ディズニーホテルの客室のうち、約2割前後が東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージで利用されている
利用者	パークの来園者構成と比べて、若干海外ゲストや宿泊園ゲストの利用が多い傾向	利用者	- 新規利用者が半数を上回る - 宿泊園ゲストが半数を上回るが、首都圏ゲストの利用も多い - 海外ゲストの利用率は約1割未満
売上規模	アトラクション・ショー収入に占める割合は、ファンタジースプリングスの開業に伴い、約1割を上回った	売上規模	連結ベースの売上規模は、500億円を超える水準（宿泊収入や有償コンテンツ収入などを含む）

従来にはないやり方で、ゲストの体験価値向上に向けた施策を拡充

As to Disney Properties ©Disney

12

2024中期経営計画の振り返り

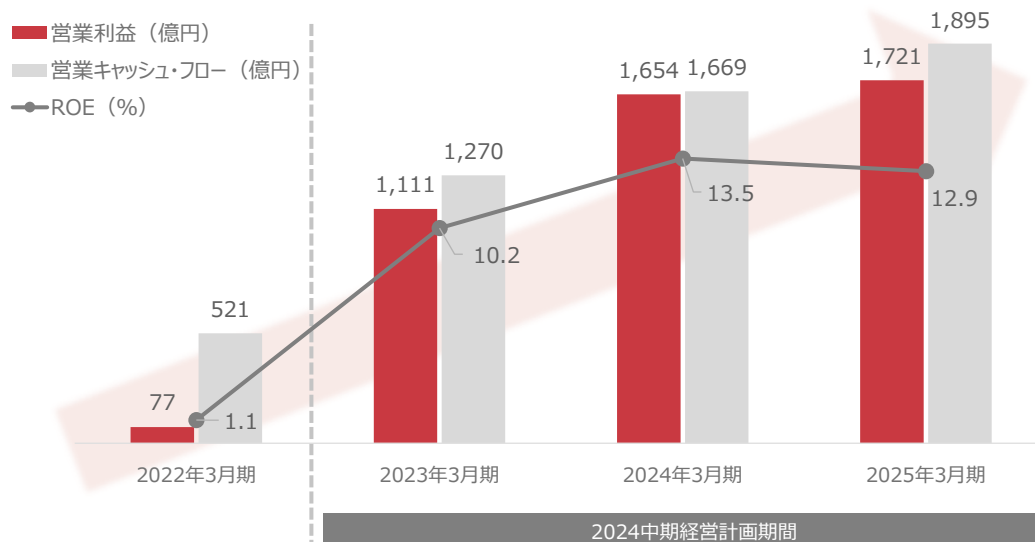
目標1つめの“ゲストの体験価値向上”については、感染症流行による人々の価値観の変容や、当社としての新たな気づきを踏まえて、様々な施策を着実に実行してきました。

1日当たりの入園者数上限を下げながら、平準化を推進することで年間の入園者数の向上を目指す施策や、ディズニー・プレミアアクセスの導入による選択肢の提供など、従来にはなかった新たなやり方を模索してきました。

結果的に、ゲスト満足度は高い水準を維持しており、ゲストの混雑感に対するネガティブ感は、感染症流行前より減少しています。

目標② 財務数値の回復：達成

- 3年間で着実に回復を続け、2025年3月期には、過去最高の営業利益、営業キャッシュ・フローを達成
- ROEは掲げていた目標（11.0%レベル）を上回った



感染症流行下から営業利益と営業キャッシュ・フローを回復させ、大幅に成長

2024中期経営計画の振り返り

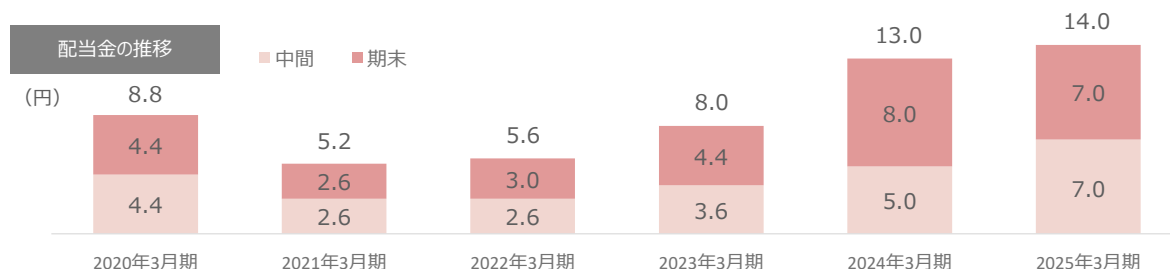
目標2つめの、“財務数値の回復”については、
 様々な施策を講じ、工夫しながらオペレーションを行ってきた結果として、
 2022年3月期から力強く回復し、
 2025年3月期には、過去最高の営業利益、営業キャッシュ・フローを達成しました。

人事戦略（従業員の働きがいを最大化しながら、持続可能な人員体制へ変化）

働きがいの最大化	- 組織ごとの働きがいの見える化のため、エンゲージメント調査を導入。OLCグループとしてのKGIを確定 - 組織ごとの傾向分析や重点取り組みを提示し、各組織の活動を支援。現状、スコアは上昇傾向で推移 3年連続で賃金改定を実施するとともに、準社員の給与体系見直しにより、安心して働ける環境を整備
持続可能な人員体制	- 役割整理（主にキャスト）に基づく処遇の改善による、採用力および定着力の向上 - 省力化の推進と採用強化によって、必要労働力を確保し、ファンタジースプリングスを開業

財務戦略

配当は、業績の回復に合わせて段階的に増配し、感染症流行前の水準に戻すという目標を達成
--



人事戦略や財務戦略も、掲げていた目標に向けた取り組みを推進

2024中期経営計画の振り返り

人事戦略は、
従業員の働きがいを最大化しながら、持続可能な人員体制へ変化することを
目標に掲げてきました。

働きがいの最大化については、エンゲージメント調査を導入し、KGIを設定したことで、
強みや課題の把握、それを踏まえた多角的な取り組みを実現しています。
現時点では、エンゲージメント調査のスコアは上昇傾向で推移しています。

また、省力化や生産性向上の取り組みによって、持続可能な人員体制を構築しながら、
一人ひとりが安心して働けるよう処遇の改善は継続して行いました。

財務戦略は、
掲げていたとおり、成長投資にキャッシュを優先的に配分しながらも、
業績の回復に合わせて段階的に増配し、
感染症流行前の水準に戻すという目標を達成しました。

2024中期経営計画期間は、
「感染症流行からの回復と将来に向けたチャレンジの期間」と位置づけ進んできましたが、
得られた学びを2035長期経営戦略に活かしながら、
新たな目標に向けて邁進していきます。

Appendix



「ディズニー・プレミアアクセス」の対象

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能



コンテンツ	導入日	価格	コンテンツ	導入日	価格
◆美女と野獣“魔法のものがたり”	2022年 5月19日	¥2,000	◆ソアリン：ファンタスティック・フライト	2022年 5月19日	¥2,000
◆スプラッシュ・マウンテン	2022年 12月1日	¥1,500	◆トイ・ストーリー・マニア！	2022年 6月10日	¥2,000
◆ベイマックスのハッピーライド	2022年 12月1日	¥1,500	◇ピリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～	2022年 11月11日	¥2,500
◇ディズニー・ハーモニー・イン・カラー	2023年 4月15日	¥2,500	◆タワー・オブ・テラー	2022年 12月9日	¥1,500
◇東京ディズニーランド・ エレクトリカルパレード・ドリームライツ	2023年 4月15日	¥2,500	◆センター・オブ・ジ・アース	2022年 12月9日	¥1,500
◇Reach for the Stars	2024年 9月20日	¥2,500	◆アナとエルサのフロズンジャーニー	2024年 6月6日	¥2,000
◇ミッキーのマジカルミュージックワールド	2024年 11月13日	¥2,500	◆ラプンツェルのランタンフェスティバル	2024年 6月6日	¥2,000
◇クラブマウスビート	2024年 11月13日	¥2,500	◆ピーターパンの ネバーランドアドベンチャー	2024年 6月6日	¥2,000
◇ディズニー・バルパルザ イツ・ア・スウィーツフルタイム！ 終了	2025年 1月15日*1	¥2,500	◇ビッグバンドビート～ア・スペシャルトリート～	2024年 11月13日	¥2,500
◇ディズニー・バルパルザ クワッキーセレブレーション★ドナルド・ザ・レジェンド！	2025年 4月8日*2	¥2,500	◇ドックサイド・スプラッシュ・リミックス	2025年 7月2日*3	¥2,500
◆：アトラクション ◇：エンターテイメント			◇ドリームス・テイク・フライト	2025年 7月16日	¥2,500

※2025年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

*1 2025年1月15日～3月16日の間、対象でした。

*2 2025年4月8日～6月30日の間、対象です。

*3 2025年7月2日～9月15日の間、対象です。

As to Disney Properties ©Disney

16



「東京ディズニーリゾート40周年記念プライオリティパス」の対象

指定された時間に短い待ち時間で施設をご利用いただける無料のサービス



スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー

アクアトピア“びしょ濡れ”バージョン*

ビッグサンダー・マウンテン

インディ・ジョーンズ®・アドベンチャー：クリスタルスカルの魔宮

プーさんのハニーハント

海底2万マイル

ホーンテッドマンション

タートルトーク

モンスターズ・インク“ライド&ゴーシーク！”

ニモ&フレンズ・シーライダー

マジックランプシアター

レイジングスピリッツ

※2025年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

* アクアトピアは2025年7月1日～9月15日の間、対象です。



2025年3月期 テマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	4/9～6/30 NEW ★「ディズニー・バルバラーザ」第2弾 ★「ドナルドのガワッキー・ダックシティ」			9/20～ NEW ◆東京ディズニーランド Reach for the Stars		
	4/9～7/31 NEW ★「セレブレーション・スペース・マウンテン：ザ・ファイナルイグニッション！」					
				7/2～9/18 ★スプラッシュ・マウンテン“びしょ濡れMAX”		
				7/2～9/18 ★ベイマックスのミッション・クールダウン		
				7/2～9/18 ★“びしょ濡れ”トゥーンタウン		
東京ディズニーシー				7/2～10/31 NEW ★「バズ・ライトイヤーのアストロブラスター “コンプリート・ザ・ミッション！”」		
	4/1～6/30 NEW ★「東京ディズニーシー・フード&ワイン・フェスティバル」					
	1/9～4/7 ←★「タワー・オブ・テラー：Level13」		6/6～ NEW ファンタジースプリングス グランドオープン ◆アナとエルサのフローズンジャーニー ◆ラプンツェルのランタンフェスティバル ◆ピーターパンのネバーランドアドベンチャー ◆フェアリー・ティンカーベルのビジーバギー			
	4/9～6/30 NEW ★「ドリーミング・オブ・ファンタジースプリングス」					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	10/1～11/7 ★「ディズニー・ハロウィーン」	11/15～12/25 ★「ディズニー・クリスマス」		1/1～1/13 ★お正月のスペシャルイベント		
	7/2～10/31 NEW ←★「バズ・ライトイヤーのアストロブラスター “コンプリート・ザ・ミッション！”」			1/15～3/16 NEW 「ディズニー・バルバラーザ」第3弾 ★「ヴァネロベのスウィーツ・ポップ・ワールド」		
				1/15～6/30 NEW ★イツ・ア・スモールワールド with グルード		
東京ディズニーシー	10/1～11/7 ★「ディズニー・ハロウィーン」	11/15～12/25 ★「ディズニー・クリスマス」		1/1～1/13 ★お正月のスペシャルイベント	1/14～4/6 ★「タワー・オブ・テラー：Level13」	
					1/15～3/31 NEW ★ダッフィー & フレンズ・ワンダフルキッチン	

★：スペシャルイベント・プログラム ◆：新規アトラクション・ショーなど

18

連結損益計算書

	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	6,847	6,793	△ 53	△ 0.8 %
テーマパーク事業	5,666	5,521	△ 145	△ 2.6%
ホテル事業	1,020	1,104	84	8.3%
その他の事業	160	167	7	4.4%
営業利益	1,700	1,721	21	1.2%
テーマパーク事業	1,428	1,404	△ 24	△ 1.7%
ホテル事業	264	304	40	15.3%
その他の事業	3	6	2	65.7%
経常利益	1,717	1,733	15	0.9%
税金等調整前当期純利益	1,717	1,735	18	1.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,205	1,241	36	3.0%

ゲスト一人当たり売上高の増や諸経費の減などにより、各利益は期初予想を上回った

当期実績(期初予想比較)－主な増減要因

テーマパーク事業①

	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高（億円）	5,666	5,521	△ 145	△ 2.6%
入園者数（万人）	2,900	2,756	△ 144	△ 5.0%
ゲスト1人当たり売上高（円）	17,470	17,833	363	2.1%
アトラクション・ショー収入	9,047	9,386	339	3.7%
商品販売収入	4,984	5,084	100	2.0%
飲食販売収入	3,439	3,362	△ 77	△ 2.2%

入園者数の減

- ・ リベンジ消費の落ち着きなどによる旅行需要の減
- ・ 東京ディズニーリゾート40周年イベント終了による減が想定以上だったことによる減
- ・ 猛暑による減

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - － 東京ディズニーリゾート・パッケージの増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
- ・ 商品販売収入の増
 - － ファンタジースプリングス関連商品による増
 - － スペシャルイベント関連商品による増
- ・ 飲食販売収入の減
 - － 想定よりもファンタジースプリングスエリア以外でのパーク回遊ゲストが減少したことによる減

ゲスト1人当たり売上高が増したものの、入園者数の減などにより売上高は減少

当期実績(期初予想比較)－主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②



	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	5,666	5,521	△ 145	△ 2.6%
営業利益	1,428	1,404	△ 24	△ 1.7%

営業利益の減

(億円)

売上高の減	
商品・飲食原価率の増	約△ 45
人件費の減	約 5
業績賞与計上による増	△ 16
準社員人件費の減	約 10
正社員人件費の減	約 5
その他	約 5

諸経費の減	約 90
販売促進費の減	約 15
研究開発費の減	約 15
エネルギー費の減	約 10
メンテナンス費の減	約 5
システム関連費用の減	約 5
その他	約 40
減価償却費の増	△ 7
新規資産の取得などによる増	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

諸経費が減少したものの、売上高の減などにより期初予想を下回った

当期実績(期初予想比較)－主な増減要因

(億円)

HOTEL ホテル事業	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,020	1,104	84	8.3%
ディズニーホテル	935	1,014	79	8.5%
その他ホテル	85	89	4	5.4%
営業利益	264	304	40	15.3%

売上高の増

・ファンタジースプリングス開業などに伴う宿泊収入の増

営業利益の増

・売上高の増

ファンタジースプリングス開業などに伴う宿泊収入の増により、期初予想を上回った

(億円)

その他の事業	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 実績	増減	増減率
売上高	160	167	7	4.4%
営業利益	3	6	2	65.7%

その他の事業は期初予想を上回った

投資額・償却費(2025年3月期実績／2024年3月期実績)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2024/3 実績	2025/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	646	594	△ 51	
東京ディズニーランド	206	331	124	スペース・マウンテン、バズ・ライトイヤーのアストロブラスターのリニューアルの増
東京ディズニーシー	331	591	259	*東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる増
その他	107	△ 328	△ 435	*東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる減 セントラルキッチン改修の増
ホテル事業	54	82	27	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他の事業	20	226	205	クルーズ事業の増
(消去又は全社)	△ 0	△ 1	△ 0	
合計	720	902	181	

(億円)

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2024/3 実績	2025/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	389	555	166	
東京ディズニーランド	162	174	12	更新改良の増 新規キャッスルプロジェクションの増
東京ディズニーシー	129	286	156	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他	96	94	△ 1	
ホテル事業	44	70	26	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他の事業	33	29	△ 4	
(消去又は全社)	△ 0	△ 1	△ 1	
合計	467	654	187	

連結貸借対照表（当期末/前期末）

連結貸借対照表

	前期末	当期末	増減
A.資産の部			
流動資産	4,522	5,253	731
固定資産	9,029	9,131	101
資産合計	13,552	14,385	833
B.負債の部			
流動負債	2,469	2,358	△ 110
固定負債	1,586	2,252	665
負債合計	4,056	4,611	554
C.純資産の部			
株主資本	9,212	9,610	398
その他の包括利益累計額	283	163	△ 119
純資産合計	9,495	9,774	278
負債純資産合計	13,552	14,385	833

（億円）

【A. 資産の部 833億円の増（6.1%増）】

I. 流動資産 731億円の増

（1）現金及び預金の増	383 億円
（2）有価証券の増	259 億円
（3）棚卸資産の増	80 億円

II. 固定資産 101億円の増

（1）設備投資による増	902 億円
（2）減価償却による減	△ 654 億円
（3）投資有価証券の減	△ 133 億円

【B. 負債の部 554億円の増（13.7%増）】

I. 流動負債 110億円の減

（1）1年内償還予定の社債の減	△ 100 億円
（2）未払法人税等の減	△ 34 億円

II. 固定負債 665億円の増

（1）社債の増	699 億円
（2）長期借入金の増	7 億円

【C. 純資産の部 278億円の増（2.9%増）】

I. 株主資本 398億円の増

（1）親会社株主に帰属する当期純利益による増	1,241 億円
（2）自己株式取得による減	△ 618 億円
（3）配当による減	△ 247 億円



株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。